

令和 6 年 9 月 9 日現在

機関番号：33936

研究種目：若手研究

研究期間：2020～2023

課題番号：20K19194

研究課題名（和文）安全安心な硬膜外麻酔分娩を提供するための助産師教育プログラムの開発

研究課題名（英文）Development of a midwife education program to provide safe and secure epidural anesthesia delivery

研究代表者

星 貴江 (Hoshi, Kie)

人間環境大学・看護学部・講師

研究者番号：80637728

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 2,300,000円

研究成果の概要（和文）：本研究では、助産師基礎教育に必要な硬膜外麻酔の教育内容に関する文献的検討およびインタビュー調査により助産基礎教育に必要な硬膜外麻酔の教育内容を抽出し確定した。その結果をもとに、硬膜外麻酔に関する助産師教育プログラムを作成し検証を行った。硬膜外麻酔分娩の助産師教育では、分娩の基盤となる自然分娩の知識や分娩誘発や分娩遷延の知識等の習得が必要であり、その教育を含め硬膜外麻酔分娩の助産師教育プログラムが成立し、教育内容としては、硬膜外麻酔分娩に関する概要、硬膜外麻酔分娩に関する助産ケア、多職種との連携は必要であり、映像教材は有効であった。

研究成果の学術的意義や社会的意義

今後、女性の社会進出による高学歴化や核家族化が増えていくことが考えられ、より一層、硬膜外麻酔分娩を選択する女性が増えると考えられる。助産師基礎教育の中で硬膜外麻酔分娩に関する教育が十分されていない現状の中、本研究で硬膜外麻酔分娩の教育プログラムを作成および検証したことは、助産師の実践能力が強化できると考える。ひいては硬膜外麻酔分娩を選択する妊産婦のケアの充実につながり、硬膜外麻酔分娩を選択した女性たちの妊娠・出産・育児が安全・安楽な体験となると考える。

研究成果の概要（英文）：In this study, the educational content of epidural anesthesia necessary for basic midwifery education was extracted through a literature review and interview survey regarding the educational content of epidural anesthesia necessary for basic midwifery education, and the educational content was determined through a Delphi survey. Based on the results, a midwifery education program on epidural anesthesia was developed and validated. The midwife education program for epidural anesthesia is necessary to acquire knowledge of natural childbirth, induction of labor, and prolongation of labor, which are the foundation of delivery. The video materials were effective.

研究分野：助産学

キーワード：硬膜外麻酔分娩 助産師教育 教育プログラム

1. 研究開始当初の背景

近年、出産に対する女性たちの多様なニーズから硬膜外麻酔分娩での出産を志向する妊産婦が年々増えており(日本産婦人科医会, 2018), 2018年に「無痛分娩の安全な提供体制の構築に関する提言」が取りまとめられ, 無痛分娩の質と安全性の向上を実現するためには, 人材の養成が必要不可欠であり, 医療スタッフの研修体制の整備に関する提言がされた(厚生労働省, 2018)。

助産師は, 従来「自然性を尊重し, 自然な経膈分娩を介助する」ことを基本とした業務を行ってきたため, 無痛分娩に対する助産師の意識は低い(濱, 2006; 三國, 2005)。硬膜外麻酔分娩は自然な経過の分娩と比べより高度な知識や実践能力が求められ, 妊産婦に寄り添いケアを行う助産師にとって, 硬膜外麻酔分娩に関する教育は必要不可欠である。日本における無痛分娩に関する助産師基礎教育は 24%程度しか行われていない現状がある(三國, 2005)。

本研究では, 助産師基礎教育課程修了時の学生への硬膜外麻酔分娩に関する教育プログラムの作成と検証を行い, 教育の充実を図ることで助産師の実践能力の強化ができ, ひいては助産ケアの質の向上ができると思う。

2. 研究の目的

助産師基礎教育課程における硬膜外麻酔分娩に関する教育内容を抽出する。そして, 助産師基礎教育における安心安全な硬膜外麻酔分娩に関する教育プログラムを作成し, 検証することである。

3. 研究の方法

1) 第1次研究: 助産師基礎教育に必要となる硬膜外麻酔分娩に関する教育内容の確定

(1) 研究1-1: 硬膜外麻酔分娩に関する助産師基礎教育における教育内容の文献検討

目的: 国内外の書籍から硬膜外麻酔分娩に関して助産師教育に必要となる教育内容を抽出する。

方法: 過去10年間の国内外の助産師教育に関する書籍から, 硬膜外麻酔分娩に関して助産師教育に必要となる教育内容を抽出した。

(2) 研究1-2: 助産師基礎教育に必要となる硬膜外麻酔分娩に関する教育内容の抽出

目的: 助産師基礎教育に必要となる硬膜外麻酔分娩に関する教育内容を抽出する。

方法: 質的記述的研究デザインである。対象は, 大学院助産師養成課程の教員5名および硬膜外麻酔分娩実施施設の勤務助産師5名の計10名とした。基本的属性および助産師基礎教育において卒業時最低限必要となる硬膜外麻酔分娩に関する教育内容および到達目標についてインタビューを行った。

(3) 研究1-3: 硬膜外麻酔分娩に関して助産師基礎教育に必要となる教育内容の確定

目的: 研究1-1・1-2から抽出した硬膜外麻酔分娩に関して助産師基礎教育に必要となる教育内容をまとめ, コンセンサスを得る。

方法: 量的記述的研究デザインである。全国の助産師養成課程の教育代表者216名に対して, 計39項目の教育内容についてまとめた質問紙を作成し, デルファイ法を用いて収斂した。本研究では, 郵送法にて行い, ラウンド数は3回とし探索的な調査であることから同意率は51%とした。

2) 第2次研究: 硬膜外麻酔分娩に関する助産師教育プログラム作成

目的: 硬膜外麻酔分娩に関する助産師教育プログラムを試案する。

方法: 介入研究(前後比較試験)である。研究1の結果から抽出された教育内容について, 学習目標を設定し, 助産師養成課程に在学するローリスク分娩の講義が終了している学生15名に対して行った。プログラムは, 講義形式で1回とし, 時間は120分の講義形式を予定した。プログラムの実施前後に確認テストを行い, 受講前後でウィルコクソン順位和検定にて分析をした。また, 質的データは, 質的記述的分析を行い ARCSモデル(Keller, 1987)を使用し学習者の学習活動への満足度を評価しプログラムの評価を行った。

3) 第3次研究: 硬膜外麻酔分娩に関する助産師教育プログラムの検証

目的: 硬膜外麻酔分娩に関する助産師教育プログラムの検証を行う。

方法: 研究2において作成したプログラムの時間を短縮し, さらに助産師のケアの動画を取り入れ精選し, 硬膜外麻酔分娩に関する助産師教育プログラムの検証を行った。助産師養成課程の学生5名に対し, 硬膜外麻酔分娩に関する助産師教育プログラムを実施し, 検証した。

4) 倫理的配慮: 人間環境大学倫理審査委員会の承認を得て行った(研究1-2: N2020N-01, 研究1-3: N2021N-005, 研究2.3: N2022N-012)を得て実施した。本研究に関連して, 開示すべき利益相反関係にある企業等はない。

4. 研究成果

1) 第1次研究の結果

(1) 研究1-1: 国外10件, 国内6件の計16件の教科書および参考書から, 硬膜外麻酔分娩の概要, 硬膜外麻酔分娩時のケアについての教育項目を計31項目抽出した.

(2) 研究1-2: 研究参加者計10名のインタビューデータから, 硬膜外麻酔分娩の教育内容として, 3の大カテゴリ【硬膜外麻酔分娩の概要】,【硬膜外麻酔分娩において助産師に求められるケア】,【医師への信頼と協働と連携】が抽出された. また, 硬膜外麻酔分娩の教育の前に習得しておく必要がある教育内容については, 3のカテゴリ 基本的な産痛のメカニズム, 自然性を尊重する助産師の理念, 自然分娩を基盤とした麻酔分娩の教育が抽出された. 教育内容として 硬膜外麻酔分娩の概要, 硬膜外麻酔分娩において助産師の求められるケア を理解し, 医療介入のある分娩方法であることから自然分娩とは違い 医師への信頼と協働と連携 についての教育が必要であることが考えられた. また, 硬膜外麻酔分娩を学習する上では 自然分娩を基盤とした麻酔分娩の教育, 基本的な産痛のメカニズムの知識, 自然性を尊重する助産師の理念 を理解していることが必要であり, ローリスク分娩を学習し助産師教育の基盤をつくり, その後硬膜外麻酔分娩の教育をすることが必要であると考えられた.

(3) 研究1-3: 216名のうち第1回目調査では65名(30.1%), 第2回目調査では52名(24%), 第3回調査では43名(19.9%)の協力が得られた. 3回の調査において計39項目の硬膜外麻酔分娩に関する助産師基礎教育内容のうち35項目が51%以上の同意率が得られた. 39項目中35項目について51%以上の同意が得られており, 概ね教育内容として妥当であったと考える. 合意形成が得られなかった項目については, 項目「費用について」は自由診療であるため施設により違いがあることにより同意率が低かったと考えられる. また, 硬膜外麻酔分娩のメリットである「産後の早い回復」, 「出産の高い満足度」については, 産婦の主観的な評価であること, また国内外の研究によるエビデンスが十分普及していないことが考えられた.

2) 第2次研究: 研究協力者は, 助産師養成課程計5施設の計15名であった. 助産師養成課程別では, 大学院が13名(86.7%)であり, 学部2名(13.3%)であり, 全員最終学年であった. 教育プログラム受講前後のテストの得点は, 有意に上昇していた. 硬膜外麻酔分娩に関する教育プログラムを受講し興味・関心, 学びは, 12のカテゴリ 硬膜外麻酔分娩の普及への関心, 硬膜外麻酔分娩の方法や流れへの関心, 硬膜外麻酔分娩のデメリットへの関心, 硬膜外麻酔分娩時の助産ケアへの関心, 多職種連携への関心, 助産師が硬膜外麻酔分娩を選択する妊産婦を支援する意義, 麻酔や麻酔分娩に関する既存の学習の振り返り, 硬膜外麻酔分娩時のケアへの自信, 教育プログラム受講後の新たな学習意欲, 硬膜外麻酔分娩に関する知識の活用, 学びを深めることができた満足感, 就職前に学習できた満足感 が抽出された. 硬膜外麻酔分娩に関する助産師教育プログラムの評価は, 5つのカテゴリ プログラムの内容や教材・難易度・時間はよかった, 硬膜外麻酔分娩時のリアルな助産師の動きや産婦の様子をみたい, レディネスを踏まえた学習時期の設定, 学内演習の可能性, スライドの改善 が抽出された. 考察: 教育プログラム受講前後の得点数が, 受講後に有意に上昇し, 教育プログラムを受講し知識が得ることができたと考えられる. 対象者は教育プログラムを受講し関心や満足感を抱き, 学習意欲の動機付けがされていたと考えられる. 特に硬膜外麻酔分娩を選択した妊産婦にケアをおこなう当事者としての主体的な意識を持ち, 助産師が硬膜外麻酔分娩を選択する妊産婦を支援する意義 を見出し, ケアの重要性を認識し学習の動機付けがされていたと考えられる. プログラムの課題としては, 硬膜外麻酔分娩時のリアルな助産師の動きや産婦の様子をみたい という意見があり, 分娩見学や介助をする機会が少ないためニーズがあったと考えられる.

3) 第3次研究: 教育プログラム受講前後のテストの得点は高くなっていた. 硬膜外麻酔分娩に関する教育プログラムを受講し興味・関心, 学びとして, 【再認識した助産師基礎教育における硬膜外麻酔分娩の教育の必要性】,【臨場感がある模型や物品・動画で実際のケアの理解】,【硬膜外麻酔分娩時の助産師の役割の理解】,【麻酔の副作用や合併症に関する学びと関心】,【助産師としてのケアの自信と学習への意欲】の5つの大カテゴリが抽出された. 硬膜外麻酔分娩に関する助産師教育プログラムの評価は, 【正常分娩を基盤とした実習前の硬膜外麻酔分娩の学習へのニーズ】,【講義形式へのニーズ】の2つの大カテゴリが抽出された. 考察: 今回の教育プログラムは既習の教育内容であったが, 対象者の助産師としての役割の理解やケアを再認識し, 学習意欲の動機付けがされていたと考えられる. 自然分娩の学習が十分行われ, 実習が開始するまでには学習を終えておく必要があると考えられ, 講義と実習とのバランスを考慮する必要がある. また, 正常分娩よりハイリスク分娩である硬膜外麻酔分娩では, イメージができないことを多くあり, 施設によって方法が異なるため, 基本となる知識の習得が重要となり講義のみで十分であると認識していたと考えられる.

4) 全体の考察と今後の課題: 硬膜外麻酔分娩の教育は, 分娩の基盤となる自然分娩の知識や硬膜外麻酔分娩で併用される分娩誘発や分娩遷延の知識等の習得が必要であり, その教育を含め硬膜外麻酔分娩の助産師教育プログラムが成立すると考える.

そして, 硬膜外麻酔分娩の教育内容としては, 硬膜外麻酔分娩に関する概要, 硬膜外麻酔

分娩に関する助産ケア，多職種との連携は必要であり，映像教材の活用は硬膜外麻酔分娩の助産師の役割をイメージすることができ本プログラムは教育効果があった．また，硬膜外麻酔分娩に関する助産ケアを理解することで，助産師としての役割を広く捉えることができ，助産師としてのアイデンティティ形成の可能性が示唆された．助産師養成課程の修業年限や実習状況によって違いがあるため，他のカリキュラムの関係を考えながら教育内容を検証していく必要がある．また，硬膜外麻酔分娩に対する助産師教員個人の価値観が教育内容に影響を与える可能性があり，今後対象者を増やし研究を重ねていく必要がある．

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計1件（うち査読付論文 1件 / うち国際共著 0件 / うちオープンアクセス 1件）

1. 著者名 星 貴江, 杉下 佳文	4. 巻 64(4)
2. 論文標題 助産師基礎教育に必要な硬膜外麻酔分娩に関する教育内容の抽出	5. 発行年 2024年
3. 雑誌名 母性衛生	6. 最初と最後の頁 602-610
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

〔学会発表〕 計2件（うち招待講演 0件 / うち国際学会 1件）

1. 発表者名 Kie HOSHI, Kafumi SUGISHITA, Chiharu ITO, Setsuko KURATA
2. 発表標題 EXTRACTION OF EDUCATIONAL CONTENT RELATED TO VAGINAL DELIVERY WITH EPIDURAL ANESTHESIA REQUIRED FOR MIDWIFERY EDUCATION
3. 学会等名 The 25th East Asian Forum of Nursing Scholars（国際学会）
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 星 貴江, 杉下 佳文
2. 発表標題 デルファイ法による助産師基礎教育に必要な硬膜外麻酔分娩に関する教育内容の抽出
3. 学会等名 日本助産学会誌 37(別冊)
4. 発表年 2023年

〔図書〕 計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

氏名 （ローマ字氏名） （研究者番号）	所属研究機関・部局・職 （機関番号）	備考
---------------------------	-----------------------	----

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8 . 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------